

第36回 箕面市地域公共交通活性化協議会 会議録

1. 日時

平成30年12月28日（金） 午前10時00分～午前11時10分

2. 場所

箕面市役所 3階 委員会室

3. 出席者

(会長)

- ・箕面市副市長 柿谷武志

(副会長)

- ・箕面市地域創造部長 小山郁夫

(監事)

- ・公共交通に見識のある行政経験者 清田栄紀
- ・箕面商工会議所副会頭 松出末生

(委員)

- ・富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科准教授 猪井博登
- ・阪急電鉄株式会社交通プロジェクト推進部長 奥野雅弘
(代理出席) 交通プロジェクト推進部課長 岡田善光
- ・北大阪急行電鉄株式会社常務取締役延伸事業部長 神谷昌平
- ・阪急バス株式会社自動車事業部長 野津俊明
(代理出席) 自動車事業部副部長兼営業計画課長 野澤俊博
- ・阪急バス労働組合副執行委員長 日田守
- ・大阪高速鉄道株式会社総務部長 武田一雄
(代理出席) 南伸準備室長 高原範博
- ・みのおの交通を考える会の代表 永田よう子
- ・箕面市身体障害者福祉会の代表 川部三郎
- ・大阪船場繊維卸商団地協同組合専務理事 八木斉
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画） 稲沢文啓
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（輸送） 後藤孝行
- ・大阪府都市整備部交通道路室参事 日田哲也
- ・国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課長 原辰幸（オブザーバー）
- ・箕面市みどりまちづくり部長 肥爪慶一郎
(代理出席) みどりまちづくり部道路管理室長 波多野輝

(欠席)

- ・大阪大学大学院工学研究科教授 土井健司
- ・一般社団法人大阪タクシー協会専務理事 井田信雄
- ・東急不動産 SC マネジメント株式会社みのおキューズモール総支配人 桑原克典

- ・国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所管理第二課長 佐々木知之
- ・大阪府池田土木事務所維持保全課長 岸川大洋
- ・大阪府箕面警察署交通課長 三谷剛史
- ・国土交通省近畿運輸局自動車交通部旅客第一課長 伊藤徳男（オブザーバー）
- ・箕面市市政統括監（副市長） 具田利男
- ・箕面市健康福祉部長 大橋修二
- ・箕面市教育次長兼子ども未来創造局長 高橋由紀

以上、委員 26 名のうち 17 名出席、オブザーバー 1 名出席

4. 議 題

- (1) 規約・規程の改正について
- (2) 平成 29 年度事業報告及び収支決算について
- (3) 運行状況について
- (4) その他

5. 議事要旨

- (1) 規約・規程の改正について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑なし。】

- (2) 平成 30 年度事業計画及び収支予算について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○監査報告書での意見について、運転士の対応にバラツキがあるが、オレンジゆずるバスの運行に係るサービス向上に向けた考えは。

→阪急バス(株)において、CSの向上を社内で行い、接客のDVD等を作成し、具体例を乗務員に示し、均一なサービスを提供できるようサービス向上に努めている。

- (3) 運行状況について

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○ルート延長とバス停の新設に係る平和台地区からの要望について、平和台地区は高齢化が進んでおり、急な坂の移動が大変なので、検討いただきたいが、現在の検討内容は。

→平和台地区は高齢化が進行し、公共交通の整備が一番の課題であるという窮状もお聞きしている。要望の運行ルートは急な坂が多く、また狭小な箇所もあるため、まずは、物理的に安全な運行が可能かどうかをバス事業者である阪急バス(株)に確認しているところ。

実証運行時の見直し基準（1日あたりの利用者数50人以上で見直しを検討）では、現在、平和台バス停が40人/日、平和台西バス停が11人/日であり、見直し基準に達していない。

また、本格運行移行後の運行ルートを改編すると、現在のパターンダイヤが崩れることが想定され、他のバス停、ルートを短縮する等幅広い観点で検討していく必要がある。

今の本格運行のルートは今まで市民部会等で議論いただいた上で移行しており、すぐに変更することは難しいが、今後のバス路線再編に係るオレンジゆずるバスのルート見直しの中で、要望内容についても検討課題の一つとして扱っていきたい。

○2019年10月に消費税が10%に上がる。8%に上がった際の検討において、阪急バス(株)から、10%に上がった際に、路線バスとの価格差が出ることもあり、値上げを検討すべきとの意見があった。消費税増税により、運行経費が上がることから、平成31年度の予算を見据え、運賃単価の値上げを検討すべき。

→収支改善と併せて、分科会・協議会等で議論いただき、阪急バス(株)の状況や、国からの通知等を参考にしながら、平成31年度予算にどう盛り込んでいくか検討していきたい。

○消費税が8%に上がる際に、大人運賃を200円から210円に値上げし、トータルで3%上がればよいので、高齢者や回数券の運賃は据え置きにした。その際に、次に10%増税時の対応も検討している。

過去の議論経過を参考にしつつ、近年は、回数券等の利用が増加し、1人あたりの運賃収入が減少しており、収入の状況が変化しているため再度議論するべきである。

○平日の利用者数は増加しているのに対し、収支率が上がっていないが、収支の経年変化の状況は。

→経年で見ると、平日は平成25年5月の本格運行開始後、利用者数は右肩上がりが増え続けているが、収支率は微増となっている。

原因としては、人件費やガソリン代等の運行経費が毎年上がっていることと、1人あたりの運賃収入が減っているということ。

1人あたりの運賃収入においては、割引系の利用が進んでいることが原因で、オレンジゆずるバスの認知度が高まり、賢く利用される方が増えていると想定している。

今後は消費税増税に伴う対応等と併せて収支改善について検討していきたい。

(4) その他

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○アンケート分析のクロス集計結果等はいつ頃示されるのか。

→アンケートの分析結果の検討とりまとめに期間を要している。アンケートの分析結果について、阪急バス(株)と協議・調整の上、運行ルートへの反映等分かりやすい形で早期に分科会・協議会で示したいと考えている。

○北大阪急行線の延伸に伴って、バス路線の再編を検討しているが、再編内容によっては、阪急バス(株)の人員や車両等の社内体制を変えていくことになることから、早期に阪急バス(株)と協議すべき。

→バス路線再編の運行ルート案等に関して、市の案ができた段階ですぐにでも阪急バス(株)と協議を進めていく。

○地域公共交通網形成計画には、交通の現状や課題、方針、施策、評価等の項目もあるため、アンケ

ート結果と併せて議論していただきたい。また、平成31年度に計画策定する詳細なスケジュールを示して欲しい。

→今後、阪急バス(株)とも協議した上で、次回にできる限り具体的なスケジュールをお示ししたい。

○行動予測は難しい課題であることから、アンケートの分析結果について、分科会等で議論し、発散する必要があると考えられる。北急延伸のタイミングでは、実証運行により、状況を見ながら見直しを行っていく方針もあるので、分析結果について、現段階のものでもよいので、阪急バス(株)と調整の上、分科会等で示して欲しい。

→分析については、トライアンドエラーを繰り返して進めており、市と阪急バス(株)で協力・意見交換して、分科会も活用させていただき、検討を進めたい。

○災害が起こった際、オレンジゆずるバスは運休したことが、阪急バスは運行しており、オレンジゆずるバスが遅れているだけかと思いき、バス停で待っている市民が多くいた。FM タッキー等では広報していたが、ずっと聞いている方も少ないので、バス停に市民向けの掲示をする等、案内をもっと丁寧にすべきではないかと思うが見解は。

→災害については突発的なところもあり、あの当時はできる限りの広報の仕方に対応をしていたが、バス停での掲示等もっと丁寧にできる場所はあったかと思う。

今後の災害時にこういった形で広報をするのかという点については、阪急バス(株)と協議しながら最適な方法を考えていきたい。

○災害時のオレンジゆずるバスの運行状況について、防災スピーカーを使用して周知してはいかがか。

→運行しているルートとしていないルートがあるため、防災スピーカーの使用が適切な周知方法か検討の必要がある。

一番分かりやすいのはバス停への掲示だと考えており、その他、ホームページやバスロケーションシステム等を活用しながら周知していきたいと考えている。

○災害時、路線バスでも運行しているルートと運行してしていない路線があり、運行していない路線に関しては同じような混乱が生じた。その理由は、前日の台風時に倒木や信号機故障、停電等によって運行できない状況であったが、翌朝、同様の状況であるにもかかわらず晴れていたため、市民は運行しているだろうと思いき、バス停で待たれていたということであった。

スマホやパソコンを見ることのできない方がバス停にいる際、こういった対応をするかについては、オレンジゆずるバスだけではなく、阪急バス(株)も同じ悩みを抱えているかと思う。その点に関しては何か工夫しながら対応していく必要があり、検討の必要があると思うが、阪急バス(株)での対応はいかがか。

→今回の災害は想定を上回っており、停電や上屋の倒壊等の事態も発生した。全社員フル動員で全ての対応にかかったが、全ての停留所に掲示するのに非常に時間を要した。全ての停留所への掲示が一番親切で分かりやすいと承知しているが、全てとなると箇所数が多く、困難である。

今後はお客様にいち早く情報をお伝えできるよう様々な手段を活用し、箕面市とも協議を行いながら、お客様の利便性向上に努めさせていただく。

○災害時、完璧な対応は難しいと思うが、バス停の近くの協力店と連携をとって、バス停に案内を貼りに行ってもらえる等、協力体制の活用も必要ではないかと思う。
→様々なアイデアもあると思うので、分科会等で議論し、協力を得ながら、少しでも周知できるような工夫を考えていきたい。

以上